

[原著論文]

幼稚園経営と学校評価制度 —保育の質の向上を図る自己評価の課題と解決策—

永利 陽一*

要 旨

学校改善のために自由ヶ丘幼稚園では、文部科学省の指針にのっとり学校評価に取り組んだ。学校評価の自己評価の分析から、1 自己評価の信頼性妥当性、2 自己評価の形骸化、3 取り組みの温度差、4 職能成長といった課題が見えてきた。その課題の解決に向け、職員相互評価、保護者評価、職能成長からのアプローチを試みた。3つの課題解決の取り組みから自己評価を基盤とするカリキュラムマネジメントへとたどり着いた。

The Kindergarten Management and the School Evaluation System —Self-evaluation tasks and solutions for improving the childcare quality—

Yoichi NAGATOSHI*

Abstract

In order to improve Jiyugaoka Kindergarten, we worked on a school evaluation in conformity with the guidance of MEXT (the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology). After analyzing a self-evaluation of the school, the following came to light:

One, the reliability and validity of a self-evaluation.

Two, such evaluations becoming a mere shell, without real meaning.

Three, the difference in levels of enthusiasm in grappling with issues.

And four, the growth of professional ability.

Moving toward solutions, we tried reciprocal staff evaluations, parent/guardian evaluations, and measures to improve professional growth. It is from these three approaches that we arrived at self-evaluation-based curriculum management.

* 九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園

* Jiyugaoka Kindergarten Attached to Kyushu Women's University

1. はじめに

学校評価の目的として文部科学省から出された幼稚園における『学校評価ガイドライン[平成23年改訂]』には次の3点が述べられている。

①組織的・継続的な改善を図る

各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さなどについて評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。

②学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり

各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者などによる評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。

③一定水準の教育の質の保障と向上

各学校の設置者などが、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備などの改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

文部科学省によるガイドラインが設定されたのが2000年であったが、その取り組みの状況を見てみると、2006年の実施率は65.9%であったのが、2008年には73.5%と少しずつ浸透してきている様子が見られる。しかし私立幼稚園における学校評価は2006年は52.9%、2008年は60.9%と上昇は見られるもののまだ十分に浸透していない。その理由として安達譲氏は『私幼時報』（2013年7月号）で次のような園経営者の意見を紹介している。

「私たち私立幼稚園は毎年園児募集をしており、入園申し込みの段階ですでに保護者から評価されています。これ以上シビアな評価はありません。そもそも学校評価は義務教育諸学校における教育の質向上への期待からきていることで、なぜ、私立幼稚園まで複雑な手続きを踏んで評価に取り組む必要があるのでしょうか。」¹⁾

幼稚園の経営者や園長からよく聞かれる意見である。しかし、保護者が入園を決める際に参考とするのは単に保育の質だけではない。筆者が勤務している自由ヶ丘幼稚園が2011年に新入園児の保護者を対象に行ったアンケートでは下記のような結果が出ている。

2011年実施 85人回答（記述式 複数回答）

自由ヶ丘幼稚園を選ばれた理由をお教えてください。

- 幼稚園を見学して先生たちの姿から（32人）
- 園児送迎用にトーマスバスがあり子どもが喜ぶから（29人）
- わくわく保育（未就園児教室）に参加して楽しかったから（28人）
- 近所だったから（26人）
- 幼稚園を見学して子どもたちの様子が良かったから（25人）
- 大学との連携を生かした教育がなされているから。（15人）
- 友達のすすめで（12人）
- 自然環境が良い（8人）
- 周りの子が通っていた（7人）
- 制服がよい（6人）

この調査からわかるように、保護者の幼稚園選択には教員たちの姿が1位になっているものの、送迎バスのキャラクターだったり、制服であったり、さまざまな要素が入園を決めた動機となっている。園児数が増加していることと保育の質の向上がなされていることとは必ずしも相関があるのではなく、よりよい保育への改善の取り組みが園児が増加していること、あるいは減少していないことを理由におざなりになる可能性がある。学校評価をめぐっては、次のような課題が指摘されている。

「実施状況調査から見ると、今日では、全国の学校で学校評価が実施され、確かに一定程度の成果と学校の状況が公表され、保護者や地域住民との連携も推進されている状況が読み取れる。しかし、その内実をさらに分析すると、その取り組みが形式的で改善の実感が得られず、実効性が高まっていないという指摘があることは否めない。（中略）学校評価の取り組みが十分に進んでいないか、目的の把握等があいまいなまま、とりあえず実施しているという現状が散見される。」²⁾

また福本みちよ氏は、「現在の日本の学校評価の展開状況を見てみるとおよそ次のような問題が発生しているように思われる。まず第一は成果主義の浸透により、数値で示せる『成果』に頼る傾向が生まれつつあることである（中略）自治体レベルでの統一フォーマットに従って実施しているケースが増えているが、（中略）単純に数値を上げることが教育活動の目標となるやり方や、現状分析が不十分なまま数値の設定がなさ

れると、肝心な保育活動の質ではなく量的な側面に注意がいくようになる。(中略)数値目標に達したかどうかをチェックして確認するという矮小化された学校評価が無意識のうちに定着していく危険性がある。」³⁾と指摘している。日本の学校評価システムは、平成14年3月に規定された小学校設置基準・中学校設置基準及び高等学校設置基準等の一部改正による学校の自己評価に関する規定の整備により、その法制化が進められてきたが、学校評価に対する理解不足を含め、多くの課題を抱えているのが現状である。保護者アンケートイコール学校関係者評価というとらえ方も多くの幼稚園で見られる。また学校評価に関する実践、研究は小学校中学校が大半を占め、幼稚園での実践、研究はほとんど見られない。私立の個人経営が多く、そのほとんどが小規模経営であることも実践、研究が進まない一因であろう。

先程の自由ヶ丘幼稚園は、北九州市八幡西区に設置されている九州女子大学の附属幼稚園として、今年で創立43年を迎える。附属幼稚園として幼稚園教諭を志す多くの学生を毎年受け入れ、園舎は九州女子大学と隣接する形で建てられている。園児数は増加の傾向にあり、現在2歳児から5歳児まで256人が在籍している。園長、副園長、教職員8名、補助職員7名、事務職1名が在籍し、筆者は平成22年度から園長として幼児教育に携わっている。

本稿では実効ある自己評価の取り組みについて、現在の学校評価の現状をとらえ、その問題点と課題および一歩踏み込んで自己評価を起点とする経営へのアプローチによる解決策を勤務する自由ヶ丘幼稚園での実践によって探っていきたい。

2. 本園におけるPDCAサイクル

学校改善のための本園におけるPDCAサイクルは以下の通りである。

1) P: プラン (計画)

4月当初に、本園の方針の明確化を図り職員すべてが共同実践できるように園長より経営方針を提示し説明を行う。園児にとって魅力ある幼稚園、保護者にとって信頼される幼稚園を大きな柱として、具体的に達成の道筋を示している。それを受けて担任がそれぞれ学級経営を構想していく。その中では、本園の目標と整合性を取るために、重点項目に従い学級の青写真をつくっていく。これにより職員の全ベクトルを本園の

重点目標へと収斂させることができる。(資料1,2)

2) D: 実践

カリキュラムをもとに月案を作成、週案に指導計画を立て実践する。(資料3,4)

3) C: 評価

2013年度1学期の自己評価は以下の通りである。重点目標に沿って項目を絞り、記述も併用している。文章にすることで、取り組みの反省を意識化させ、次への新たなアクションへ向かうようにしている。(資料5)

職員は自己評価の中で安全・安心な幼稚園づくりの中の「安全に最大限の注意をして保育活動に当たった」の項目に高い評価を与えている。また「自発的に活動したり遊べる環境を整備している」にも高い評価を与えている。逆に、「生き物の飼育・植物の栽培、本の読み聞かせ等心を耕す活動を実践した」「PDCAのサイクルを通して教育の改善を行い保育の向上に努めた」の評価が低い。

4) A: アクション

評価が低かった項目に対しては、全体的な取り組みとして改善のためのアクションを起こしている。例えば評価が低かった「生き物の飼育・植物の栽培、本の読み聞かせ等心を耕す活動を実践した」に対しては、読書に関するカリキュラムの整備、蔵書の点検、お勧め図書の学年選定など具体的なアクションを行っている。

3. 自己評価の課題

本園でのPDCAのサイクルを概観したが、ここから自己評価の課題がいくつか見えてくる。評価自体の課題として、1) 自己評価の信頼性・妥当性、2) 自己評価の形骸化、3) 重点目標に対する取り組みの温度差、また評価の活用に関して4) 職能成長につなげる自分の強みと弱さの把握(学校改善に役立てる視点)が挙げられる。

1) 自己評価の信頼性・妥当性

職員8名に自己評価をしてもらおうと、評価がAやCに偏る傾向が見られた。個人の評価基準に従い、甘く評価する傾向と、逆に不十分であると厳しく評価する傾向が表れ、第3者が行う評価とは必ずしも一致しない。故に自己評価についてはなによりも信頼性と妥当性の

問題が出てくる。信頼性については主観的であってあまり信頼できないのではないかと多くの評価研究者から常に出されてきた。この点に関して安彦忠彦氏は「主観的であることは必ずしも信頼性が低いことを意味しない。例えばある行動を本人は価値の高いものと『主観的』に評価した場合と、第三者が価値の低いものと『客観的』に評価した場合とで、そのどちらがその人の次の行動に影響を与えるだろうか。研究者は、後者の場合と言いたいのであろうが、必ずしもそうなるとは限らない。私自身はどちらかと言うと、自分の行動を厳しくとらえ、周囲の人に『そんなに気にしなくても良いのではないか』といわれることが多い。けれども、私自身の判断は、たとえ、周囲の人から見れば、厳しすぎるものであっても、『私』の評価であるために、容易には捨てられない。むしろ、自分の下した評価であるために、親密であって、実感も伴っており、自己意識にマッチしているのだから、次の行動は、それに依拠することの方が多い」⁴⁾と述べている。評価の自律性は次のアクションへと向かわせる大きな原動力である。個人による甘い評価、厳しい評価であっても自らの確とした基準による判断であれば、それは有効に機能する評価となりうる。

2) 自己評価の形骸化

むしろ自己評価で問題となってくるのは慣れによる形骸化である。十分に中身を吟味することなしに、曖昧な印象により評価してしまうことから起こってくる。天笠茂氏によると「(学校における)自己評価は制度的に整備されてきたことでどうしても『やらされるもの』として認識されやすくなっている。よって学校現場では自己評価に対する実施の義務についてその認識が高まってきているが、その動機としてはどうしても『制度だから』という理由づけを超えることができていない学校が多い。『制度だからやらされるもの』という認識のままでは、学校をエンパワーするどころか、パワーを削いでしまうことさえ懸念される」⁵⁾と述べ、制度上の課題も指摘している。

3) 取り組みの温度差

評価項目を個人で比較すると、AからCまでばらつきがある項目がいくつか見られる。「前述の本の読み聞かせを行う」の項目もそうであるが、「クラスだより、懇談会、連絡帳、電話、家庭訪問などを利用し、子どもの様子や育ち・保育内容を分かりやすく伝えるよう工夫した」の項目も充分できているというA評価が3

人、B評価が3人、あまりできていないというC評価が2人である。努力が十分でなかったのか、手立てがまわずくてできなかったのか、何が原因かを自省できるかどうか次への改善とつながる。しかし視点を変えれば、本園の重点目標が、職員一人一人に十分に浸透していないともいえる。園をあげて保護者とのコミュニケーションをとることの必要性の受け止め方が、個人によって軽重があるとも考えられる。重点目標が一人ひとりの課題となるような提示の工夫が求められるとともに、課題をどう作っていくかという組織としてのマネジメントの課題ともなりうる。つまり、本園の園児の実態を把握し、課題を出しどう解決していくかに組織を挙げた取り組みが必要となる。課題が管理職だけのものではなく、一人一人の課題となるように経営への職員の参画が問題となろう。

4) 職能成長

保育の質を高めるには当然のことながら、職員一人ひとりの資質の向上がなければならない。幼稚園における自己評価が評価のための評価で終わることがないように、改善の手立てが職員をあげて組織的になされなければならないが、同時に職員の資質が問われなければ改善は半端で終わってしまうだろう。自己評価を進めていく過程では、定められた項目への評価は、達成したかどうか、あるいはその過程はどうだったかのみが問われ、個々人の保育のレベルアップまでに議論が及ぶことは少ない。取り組みの過程と結果のみならずそれを生んだ個人の保育の資質まで考慮していく必要がある。

自己評価に関していくつかの課題を提示したが、これらの解決に向けていくつかのアプローチを試みたい。

3. 学校改善のためのアプローチ

1) 相対的位置からのアプローチ

前述のように極端にA評価に偏っている職員と、C評価に偏っている職員が見られた。C評価に偏っている職員に対する保護者の評価は決して悪いものではなく、「子どもを迎えに行くときみんなが、『〇〇君のお母さん、こんにちは。』といってくれます。子どもも毎日楽しそうに幼稚園やお友達のこと、バスの中のことを話してくれ、本当に幼稚園をエンジョイしているようです。」「2学期のはじめや体調が良くない時、また、子どもが元気がなかったり変わった様子があれば先生がお電話下さり、家で気づかないこともあったので助

かりました。良く子どもを見てくださっている先生だなとうれしく思いました。」等といった意見が多くみられ、保護者から支持されている様子がうかがわれる。評価が甘くなったり、厳しかったりする違いは個人が持っている内部基準からきている。例えば、挨拶ができるかどうかの項目でも8割の子ができていればよく出来ていると思うのか、まだ不十分だと思うのかの違いであり、共通の評価基準を作る必要性が出てくる。また、相対的位置からのアプローチも有効な方法である。2学期の評価の前に、1学期のそれぞれの項目のA評価からD評価の人数を提示した。これにより（他の人の評価を見ることで）自分の評価の相対的位置を知ることになり、それは個人が持っている評価の内部基準（自分の評価は甘いのか厳しいのか、また確かな評価基準を作る等）の変更を促し、妥当性が高まることとなる。

2) 保護者評価からのアプローチ

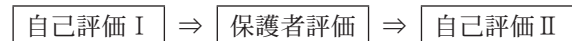
自己の持つ内部評価基準の変更や強化を促すツールとして保護者評価の活用がある。幼稚園における学校評価ガイドライン（平成23年改訂）には、「自己評価を行う上で、保護者や地域住民を対象とするアンケートによる評価や、保護者などとの懇談会を通じて、保護者の幼稚園教育に関する理解や意見、要望を把握することが重要である。尚、アンケート等については、学校が、学校の目標等の設定・達成状況や取り組みの適切さなどについて自己評価を行う上での資料ととらえることが適当であり、学校関係者評価とは異なることに注意をする」と明記されている。（資料6）

本園では、「幼稚園における学校評価ガイドライン」に従ってアンケートによる評価を行った。自己評価の資料として活用できるように項目の内容が努めて同じになるよう工夫をした。また、子どもにとって楽しい幼稚園づくり、やってよかったと思われる園づくりが大きな目標であるので、子どもが楽しく登園できているか、入園させてよかったかどうかを問うた。重点目標である、意欲の育ち、思いやりの心、元気な体づくりが推進されているか、職員のことでは、信頼される教師として保護者とのコミュニケーションができているかが評価されるようにした。保護者評価が自己評価より客観的で正しいとは言えない。例えば記述の中には「お友達とたくさん遊んでいる様子で、朝も早く幼稚園に行きたいと言っています。卒園後に入園予定の兄弟をなるべく入れるようにして欲しいです。」と書いているにもかかわらず、本園に入園させてよかった

の項目にはC：あまりそうは思わないにチェックを入れていたり明らかに矛盾している。しかし、そのように見られているということは事実である。子どもにとって楽しい幼稚園づくり、保護者にとって行かせてよかった幼稚園づくりに対して、そう思う（A評価とB評価を合わせた回答数）がそれぞれ97%、95%になっている。すべての子ども達、保護者にとって満足される幼稚園に100%となるように幼稚園に対する要望などを拾い上げながら絶え間ない努力が必要である。絵本をよく読むようになった（77%）、挨拶ができる（87%）、担任だけでなく幼稚園全体で園児にかかわっている（87%）は満足度は高いものの相対的にみると出来ていない項目である。それぞれの項目をクラスごとの評価と照らし合わせながら3学期のアクションにつなげていく努力がいる。

幼稚園の自己評価と保護者評価のずれが見られる項目がある。個人的にみるとこのずれはより顕著となる。（資料7）

自己評価は、単なる自分だけの評価から『他者評価』を取り入れて一段高い質の「自己評価」に高まらなければならない。保護者評価は自分に見えていない部分に気付きを与える契機となる。図示すれば次の通りとなる。



保護者評価による自己評価の見直しを繰り返すことで自己評価がより信頼性・妥当性を持つものになってくるが、それは自己評価能力の高まりに他ならない。保護者評価の活用は職員個人が持つ内部基準の変更を促すことになる。また自己評価を学校改善につなげていくには、職員の省察の文化をどう浸透させ常態化させていくかという視点が必要となってくる。省察の文化がないとどんなに良い評価システムが入ったとしても職員の内発的な向上意欲に迫ることはできない。内発的向上意欲につながる省察の文化をつくる保護者評価はクラスの良さを保護者の立場から発信してもらうことである。保護者アンケートで「クラスの良さを教えて下さい」という問いに寄せられた一部を紹介する。

- とても明るく先生の話をしっかり聞いている楽しいクラスだと思います。子どもも先生大好き、友達大好きで休みの日も幼稚園に行きたいと言うくらい幼稚園大好きです。園での様子もいつも詳しく連絡帳に書いてくれるので園での様子がとてもわかりやすく、子どもの成長をいつもうれしく思います。
- 簡単に休みたがっていたのが、年長になってからは全く休みたがらなくなりました。毎日帰って幼稚園での話をしてくれるのですが、本当に毎日いろいろな経験をさせてもらい、いろいろなことを学んできてくれているなど感謝の気持ちでいっぱいです。
- 子どもが帰ってきて、幼稚園であったことをきめ細かく話をしてくれるのでなんとなくその日の出来事がわかります。楽しいことをたくさん話してくれるのでクラスがよい雰囲気なんだと伝わってきます。先生も連絡帳に丁寧に子どものことを書いてくれたり、会った時に話をしてくれるので、そのあたりもよいなあと思います。それに優しいだけでなく、厳しくするときはきちんとやって下さるのでそれもありがたいです。
- とても明るくいつも友達と楽しそうに遊んでいるいいクラスだと思います。先生大好き、友達大好きで、いつも幼稚園に行くことを楽しみにしています。基本的な生活習慣や集団生活の中での友達とのかかわりなど、親の躰で行き届かないところまで、ご指導をいただき本当に感謝しています。

これらは、モチベーションの向上に寄与し期待に応えるための改善へと向かわせる。Y教諭の1学期の評価（保護者とのコミュニケーション欄）には「生の声で保護者と顔を合わせながら成長を伝えていくことが本来の願いである。連絡帳もしっかりと書いたつもりである。その気持ちが伝わっているのか保護者の方もよく返事を書いてくれる。その相互作用が私のやる気を起こしてくれるのがうれしい。」といった記述が見られた。

前述のずれが見られた評価項目の挨拶がよくできる（A評価）は、自己評価が75%に対して保護者評価は45%であった。保護者と幼稚園の自己評価が一致をみるためには、双方の日ごろのコミュニケーションが不可欠である。一致を見たときに保護者と園が同じ課題を共有することとなり、保護者と園が一体となった

保育がなされるであろう。その為には保育を常に外部に開くこととともに、幼稚園の活動に保護者が参加することも考えられる。小学校では、保護者ボランティアとして本の読み聞かせに保護者が入ってくことはごく当たり前になっている。評価が低い「本の読み聞かせ」に幼稚園でも保護者ボランティアを活用することは十分に考えられる。そうすると同じ子どもを前にその実態や成長を目の当たりにすることとなる。保護者も保育の当事者となり、保護者と園との情報交換量は飛躍的に増えることになる。このように保護者評価と園の自己評価のずれを解消する努力は必然的に保護者の参画を促す。つまりそれは保護者と幼稚園が協働して保育にあたることを意味し園児の成長にプラスに働く。

3) 職能成長へのアプローチ

幼稚園の自己評価は学期末や学年末に保育活動の結果として行われることが多い。どれほどの成果を上げたのか、成長が見られたのか、どんな手立てが講じられたかがもっぱらの議論の対象となる。その結果を生んだ保育過程を振り返ることはあっても職員の力量までなされることは少ない。したがって学校評価を考えるにあたっては、「自律性の担い手である教職員一人ひとりの現下の力量と職能発達を視野に入れる必要がある。しかし多くの学校評価の議論においては、教職員の力量形成や職能発達は評価の対象とみなされることはあっても、出発点におかれることは少ないのではないか」⁶⁾ という指摘は重要であろう。この視点で自己評価を見ると、個人の強みと弱みが見えてくる。職員1、職員5、職員8の強みは保護者とのコミュニケーション能力であり、職員6は園児の意欲を育てるための環境の工夫である。

自分の強みと弱さを把握することで個人の課題・研究テーマが見えてくる。保育技能の向上や保育理論に関する絶え間ない研鑽は、職能成長を促し保育の質を引き上げる。それはまた保育者自身の人格形成の一翼を担いだれからも尊敬される保育者になる契機となりうる。

4) 自己評価を基点とした経営へのアプローチ

自己評価の要諦は学校改善にある。園の自己評価が保育の質の向上に向かうには、今まで述べてきたように、目標の共有化、課題を見据えてのカリキュラム編成、幼稚園の課題が職員一人一人の課題となるような組織の運営、改善を促す省察文化の確立、職員と保護

者との協働、職能成長へと向かう組織的、系統的な研修、それらをまとめるリーダーの存在が必要になってくる。これらの一連の流れは「学校の教育目標を具現化するために、評価から始まるカリキュラムのマネジメントに、組織文化を含めた学校内外の諸条件のマネジメントを対応させ、これを組織的に動態化させる課題解決的な営み」と定義されるカリキュラムマネジメントと重なる。保護者が書いたクラスの良さを読んだ職員の感想である。

保護者が書いたお一人お一人のアンケートを読んでいて、涙があふれてきました。自分なりに（子どもたちのより良い成長に向け）日々頑張っていること、大好きな子どもたちへの愛情が子どもたちだけでなく、しっかりと保護者の方々へも伝わっていたことを大変うれしく思いました。このアンケート結果に甘んじることなく、私のペースで私らしさを出しながら日々の保育に精進していきたいと思います。

保育の質の向上に向けての絶え間のない努力が、保護者の満足、子どもの笑顔・成長に結び付くと実感できたとき学校評価に真摯に向かい合い、学校改善へと向かわせるカリキュラムマネジメントにたどり着く。

4. おわりに

自己評価を効果的な学校改善に結びつけるにはどうしたらいいのか、本園の実践を踏まえ、その課題と解決策を探ってきた。自己評価の実践からモチベーションを高めながらカリキュラムマネジメントへ行きつく過程を見てきた。次の実践でその有効性を確かめながらさらなる改善とつなげていきたい。

Received date 2014年1月7日

引用文献

- 1) 安達譲 (2013, 7): 私立幼稚園に学校評価は必要か,私幼時報p,17
- 2) 小松郁夫 (2012, 1): 学校評価の現状とこれからの方向,初等教育資料2 - 7
- 3) 福本みちよ (2013): 質保証時代の学校評価をどう展望するか, 福本みちよ (編), 学校評価システムの展開に関する実証的研究,玉川大学出版p,393
- 4) 安彦忠彦 (1988): 自己評価,図書文化,p, 102
- 5) 天笠茂 (2011): 学校をエンパワーメントする評価,天笠茂/大脇康弘 (編) ぎょうせいp, 23
- 6) 福本みちよ (2013): 質保証時代の学校評価をど

う展望するか,福本みちよ (編) 学校評価システムの展開に関する実証的研究, 玉川大学出版p,397

資料 1

平成25年度 自由ヶ丘幼稚園経営要綱

九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園

園 長 永利 陽一

○ 本園の特色

- ・文部科学省が示す幼稚園教育要領にのっとり、「一人一人を大切に」愛情豊かな教育環境を創造し、幼児の心身の調和的発達を図るとともに建学の精神「自律処行」による道義的人間性の育成を目指す。
- ・九州女子大学附属としての誇りと教育実習園としての責務と自覚のもとに、大学と一体になって常に教育効果を高める理論や技術を研究し、幼児の個性や能力がのびのび育つ保育を展開する

I 自由ヶ丘の教育

1 教育目標

一人ひとりを大切に、豊かな人間形成の基礎、望ましい生活習慣の基礎、より良い集団生活適応の基礎を伸び伸び育てる。

2 教育方針

- (1) 子ども一人一人の心身の発達の実情と本園の教育課程による生活と遊び中心の教育に専念する。
- (2) 子どもの主体的な楽しい活動の積み重ねによって、豊かな心情・意欲・態度の育成に努める。
- (3) 附属幼稚園としての特性を生かし、大学との連携を深めながら研修を進め、より望ましい保育を目指す。

3 本年度の重点目標

◎遊びに夢中、意欲と思いやりの心を育てる自由ヶ丘の教育

幼稚園像：夢ふくらむ楽しい園づくり

○行きたくなる幼稚園

幼稚園に行くのが楽しみ、みんなとの遊びが楽しい、先生や友達とはやく会いたいと期待される幼稚園

○夢や願いをかなえる幼稚園

やりたいことが思いっきりできる、友達と一緒にできる、自分が認められる喜び、安心して安全な喜びをかなえる幼稚園

○満足して帰る幼稚園

今日一日楽しかったと充実感や満足感を感じることが出来る幼稚園

園児像

- (遊びに夢中になれる子ども)
 ○意欲的に活動できる子ども
 ○相手を思いやれる子ども

教師像

- 笑顔で挨拶・声かけができる教師
 ○教育に対して強い情熱をもった教師
 ○教育の専門家としての確かな力量を持った教師

II 具体的な構想

1 意欲と思いやりの心を持った子の育成

○かかわる力を重視した教育の推進（かかわりを通して子どもの育成を図る）

- ・人とのかかわり ⇒思いやりの心
- ・集団とのかかわり ⇒規範意識・規律
- ・自然とのかかわり ⇒生き物への愛情や情操を豊かにし生命を尊ぶ気持ちを養う。
- ・物とのかかわり ⇒創造性
- ・事とのかかわり ⇒社会性

◇かかわりを楽しむ年少組 ◇かかわりを広げる
 年中組 ◇かかわりを深める年長組

(1) 意欲を育む教育

①環境構成の工夫

- ◆25年度の取り組みのポイント
 環境構成の工夫を行い子どもたちの自発的遊びを支援する。
 ○事例研究会を行い、取り組みの深化を図る。
 ○活動構成（遊び）の開発に努める。

②自発的遊びの展開

- ・遊びが連続発展するための工夫（教師の支援・環境整備）

③協同の遊び・協同の学びのための工夫

(2) 思いやりの心を育む教育

① 挨拶の奨励

- ◆25年度の取り組みのポイント
 挨拶ができる子90%を目指す。（対教師→対園児→対来園者）
 ○教師が率先して挨拶を行い子どもの模範となる。
 ○挨拶についての話を提起し機会あるたびに指導を行う。

②読書活動の推進

- ◆25年度の取り組みのポイント
 ○毎日時間を決めて本の読み聞かせを行う。
 ○子どもたちの心に響くお話の選択を行う。
 ○各学年必修読書をつくる。

③規範意識の芽生えの育成

- ・集団生活の中で自分の気持ちを調整する力が育つようにする。

④規範意識の芽生えの育成

- ・集団生活の中で自分の気持ちを調整する力が育つようにする。

⑤基本的な躰（礼儀作法）を大切にしたい指導をする。

(3) 健康な体を育む教育

①外遊び活動の奨励

②食育の推進

③健康な生活に対しての必要な習慣や態度の育成

- ・習慣・態度の中身を具体化し共通実践を行う。

2 信頼される幼稚園教育の推進

(1) 開かれた幼稚園づくりの推進

①家庭との連携

- ・きめ細かな情報交換を行う。

②園（学級）からの情報発信

- ・毎月1回を基本とし、子育て支援に努める。

③来園保護者とのコミュニケーション

- ・保護者との信頼関係を築く

(2) 安全・安心な園作り

①安全教育の推進

②危機管理マニュアルの整備

(3) 教職員の資質・指導力の向上

①PDCAのサイクルによる教育活動の改善

- ・週案の効果的活用を図る。

②園内研修の充実

- ・講師を招へいしての研修の実施

③個人研修の充実

- ・テーマを持ての研修の推進
- ・保育技術の向上（専門書を読む、ピアノの練習の継続等）に努める。

★年度当初の重点

ア 幼稚園での一日の生活を確立し、リズムある一日を過ごさせる。

イ 安全・安心の幼稚園づくり

ウ 家庭との連携

- ・教師の服装と言葉づかい
- ・連絡帳の効果的活用（園内研修）
- ・信頼される学年便り、学級だより
- ・保護者との対応
- ・電話連絡・きめ細かな連携

資料2

平成25年度 学級経営 (年長)組

遊びに夢中、意欲と思いやりの心を育てる自由ヶ丘の教育

学年目標		○友達とのつながりを深めながら主体的に活動し、その中で生活態度を身につけていく。 ○友達と共同する経験を多くし、お互いのよさを認めあったりつながりを深めたりする。	
学級目標		○様々な遊びや活動に興味を持ち、工夫したり挑戦したりしてやり遂げる充実感や達成感を味わう。	
幼児の実態		・年長組になったことを喜び、小さい組さんのお世話を進んで行い、自信を深めていく子が多い。 ・新しい環境に興味・関心を持ち、自分のやりたい遊びを見つけ、友達ともかかわろうとする。 ・ふざけてよい時ときちんとしなければならないときがわからない子がいる。 ・みんなの前で発言できるが、お友達が話しているときにも自分勝手にしゃべる子がいる。 ・好き嫌いが多かったり、マイペースの子が多い。 ・身近な素材を使って、自由に切ったり貼ったりしてイメージしたものを作ることができる子が多い。	
		具体的取り組み	
	自由ヶ丘の教育	意欲をはぐくむ教育	・様々な活動や行事に取り組む中で自分なりに頑張ろうとする姿や目的・課題に向けて友達同士で声を掛け合ったり、助け合ったりする姿を見守りながらよいところを伝え褒めて伸ばしていく。 ・いろいろな素材など遊びに行かせる様々な環境整備の工夫をし、身近なものを使って作ることの楽しさや発想の楽しさなどを経験し味わえるようにする。
		思いやりの心をはぐくむ教育	・バスの乗降の際、小さい組さんを迎えに行ったり優しく手をつないで連れて行ってあげる等親しみを持ってかかわる中で思いやりの心を育てる。 ・毎日の絵本や紙芝居を繰り返し読んでいく中で、その内容についてクラスで話し、考えたりしながら自分の気持ちや相手の気持ちを考えられるようになり、友達の思いや言葉にも耳を傾けながら友達とのつながりを深めていく。
		健康な体をはぐくむ教育	・登園時の挨拶の時に健康観察をする。 ・感染予防（手洗い・うがい・消毒・換気等）に努める。 ・夏には十分な水分補給をするように促す。 ・汗をかいたらタオルで拭いたり下着を着替えたりし、健康に気をつける。 ・防寒着着用の仕方と寒さに対する対応をしながらインフルエンザなどの予防に努める。
		信頼される幼稚園教育の推進	開かれた園づくりの推進
安全・安心な園づくりの推進	・避難訓練や交通安全教室などで火災や地震の時の避難の仕方を伝えていく。 ・固定遊具の安全確認を行い、安全な使い方やルールを伝える。 ・子どもの動きに合わせて、場の整理をしたり、遊びのスペースを充分に確保する。 ・高い所から飛び降りない、階段や廊下は走らない等のルールを伝え身につけていく。		
保育の質・指導力の向上	・昨年度の反省を生かし、一人ひとりの発達の課題や生活習慣の理解を深める。 ・園外研修に参加し良かったところを保育に取り入れていく。 ・先を見て計画的に保育を進めていく。 ・職員会議などで子どもの状況を伝えあい、共通理解を深めていく。		

前月の姿	ねらい	ね
・文化祭でたくさんさんの作品を作ることができ、お家の人に見てもらい褒められた事で自信や満足感が味わえたよう喜び姿が見られる。 ・散歩や半ばりなどで秋の季節感を味わうことが出来た。 ・当番活動の中で虫の世話をすることでよく観察ができ関心が高まってきた。 ・朝夕の気温差から体調を崩す子が多くなってきた。	○楽器遊びやリズムを感じ、みんなでする楽しさを味わう。 ○友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ。 ○秋の自然に触れたり自然物を遊びに取り入れたりする。（製作遊びなど）	

1週	2週	3週	4週	5週
<p>◎ピアノの仕方を知る。（導入）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一生懸命に吹き、音が出ると「でた」と言っている。 音階が分かるように部屋に楽譜を貼る。好きな時間に練習に取り組めるようにする。 吹く事と鍵盤を押す事が同時に出来ない子も居るので吹く事と押す事のタネイミングを知らせながら曲に取り組む様にします。 <p>◎文化祭での余韻を楽しむ。</p> <p>○各学年の作品を見学する。</p>	<p>◎発表会への取り組み。</p> <p>◎ピアノの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ピアノの音色を楽しみ自由時間にも練習を楽しむ姿が見られる。 <p>◎勤労感謝のプレゼント作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆勤労感謝の意味が子ども達に分かりやすく伝わるように絵本などを取り入れるようにする。 ◆お家の人に感謝の気持ちを抱けるように取り組み必要に応じた援助を行う。 ◆プレゼントを作りたいと言う気持ちを止めながらもその表現を認め褒めて自信に繋がっていくようにしていく。 <p>◎体操教室をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆体操の先生の指示通りに運動が出来ようになるがまだ、難しい子が多い。しかし、体操は楽しんで取り組んでいる。 ◆それぞれの動きを友達と一緒に取り組めるように大きく分かったりしやすいように提示する。 ◆保育者と一緒に体を動かしたりも達と楽しさを共有できるようにする。 <p>「なわとびって面白いね。」と苦戦するが頑張って取り組む姿が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子ども達が色々な遊びに興味を持てるように環境を整える。 ◆色々な遊びやなわとびなど興味を示した物をしたりチャレンジが出来るように子どものやる気を大切にして出来るように働きかける。 <p>大型ブロック・レゴブロック・まますこと・色塗り・絵本・廃材遊び固定遊具・なわとび・虫探しなど</p>	<p>◎楽器遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴の音がかわいいね。「ばくは、タンバリンがいい！」とそれぞれの楽器の使い方や音を楽しむ。 ●色々な楽器を事前に確認しておき、楽器が正しく扱えるように準備しておく。 ◆子ども達に楽器の使い方や音の綺麗な響きかけをしていく。 ◆劇ごっこ遊びから発表会に繋がるような取り組みや工夫をする。 <p>「プレゼントできた！」「ママ、喜ぶよ。」と喜ぶ姿が見られる。</p> <p>・マット運動やルールのある遊びを楽しんで取り組めている。</p> <p>◎移動動物園を楽しむ。</p> <p>・「やわらかい。」「かわいいね。」と動物に触れ合い感触などを楽しんでいる。</p> <p>●子ども達が動物に触れずに触れたり遊べるように環境に留意して行く。</p> <p>●子ども達が楽しく動物に触れたりと遊べるように子ども達の様子に合わせて言葉掛けをしたり援助を行う。</p> <p>◎自由遊び</p> <p>→寒さに負けずなわとびを回すが回す手と跳ぶ足が一致せず失敗する事が多い。</p>	<p>◎劇ごっこ遊び（導入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども達にイメージが伝わるように紙芝居や絵本などを準備しておき、みんなで話し合える場も作るようにする。 ◆意欲的に取り組み始めるようになった、表現する楽しさが味わえるような働きかけをしていく。 ◆劇ごっこ遊びから発表会に繋がるような取り組みや工夫をする。 <p>プレゼントを喜んで持ち帰る。</p> <p>・一つ一つの運動を楽しんで取り組むが出来ない運動もある。</p> <p>◎誕生会を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●誕生カードや冠、誕生会用の飾り付けなどを準備する。 ◆誕生日児を祝ったり子ども達みんなが楽しく誕生会に参加出来るように配慮する。 <p>◎クリスマスMASの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サンタさん、来るかな？」と期待しながら楽しく製作をしている。 ●収穫したどんぐりなどの自然物を使った製作が出来る様に工夫するようにする。 ◆子ども達の様子に合わせた言葉掛けや援助を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が劇ごっこを楽しみながら簡単な繰り返し言葉などを言うことで遊ぶ姿が見られるようになる。 ◆小道具や音楽などを準備して子ども達が楽しく取り組める様にする。 ◆遊びの延長戦として取り組み無理が無いようにする。 <p>◎切り紙遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆個人差に応じて製作がまだ、出来ない子には、時間を作らず取り組めるようにする。 <p>◎園外保育へ行く。（28日） （響灘ピオトープの予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は園外の雰囲気を楽ししみ、虫や昆虫に触れ合い喜びが苦手な子も居る。 ◆園外へ行くので下見を充分に行い危険箇所を把握しておく。 ◆虫や昆虫を見たり関わったりして楽しめるようにする。また、苦手な園児には無理が無いように配慮をする。

前週の子どもの姿			ねらいと内容		環境構成と保育者の関わり		
○連休の間に家族で楽しい思い出が出来たようด้วย子ども同士で話し合う姿が見られる。(主語や述語など) ○ピアノや縄とびが物珍しいようで初めは、一生懸命に取り組んでいるが出来ないとすぐに諦める所がある。 ○子ども達から「虫のご飯は？」と気にするようになり「先生、ご飯取りに行こう！」と進んで草村やグラウンドに行こうとして草を取って「たべて！」とあげて喜んでる。 ○「今日はお迎えよ。」「ECCがある。」など正確に理解でき話せるようになった。 ○発表会への意識が少しずつ出始め、「ほく、この楽器がいいな。」「わたしは、風役がいい！」など言う子がいる。	11月11日(月)	11月12日(火)	11月13日(水)	11月14日(木)	11月15日(金)	備考	
◎発表会の取り組み ○楽器に触れる。 ・色々な楽器に触れて音色を楽しむ。 ○勤労感謝のプレゼント作り。 ・頑張って作るよ」と子ども達は嬉しそうにプレゼントを作る。 ・事前に勤労感謝に関する絵本を読み聞かせ意味や興味を抱かせた。 ○子ども達がお家の人に感謝する気持ちが抱けるように必要に応じた働きかけを行うようにする。 ○自由あそび ・レゴブロック・ままごと・絵本・色塗り・ピアノ練習 固定遊具・草花遊び・虫探し	◎楽器遊び ・リズムに合わせて楽器の音を出して楽しむ。 「先週の取り組みが、出来なかった為」		◎移動動物園 ・色々な動物を冒たり触れたりして楽しむ中、怖がる子もいる。 ◆個人の様子里に合わせて言葉掛けや援助を工夫したりしてみんなで楽しめるようにする。 ・「なわとび、できん」「むずかしい」と言って嬉がる子が居るが少しずつ頑張る姿が見られる。		◎物語の話を聞いたり話し合い ・物語の紙芝居を見る事で興味を示すようになる。 ○動物園の思い出を描く。 ○体操教室 ・ピアノの音が出るようになる と面白がり喜んで取り組めるようになる。 ◆子ども達の好きな時間にピアノが出来るように環境を整え子ども達の手が届く所に置いておく。	・誕生会を楽しむ ・誕生児は、祝ってもらえると他児は、祝ってあげる優しい気持ちを抱く ◆誕生児と他児が楽しく誕生会に参加出来るように配慮しながら季節感が味わえるように工夫していく。	○保育室の環境を整え遊具などに消毒を行うようにする。 ○職員同士連携を密に取り合い安全管理に努めていくようにする。 ・環境構成に留意していく
予想される子どもの活動							
準備			・絵本や図鑑など ・消毒液 ・画用紙・クレパス			・冠 ・誕生会に使用する小道具など	
評価							

九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園

資料 5 平成 25 年度 1 学期の評価 集計表

魅力ある幼稚園づくり A：十分できている。 B：できている。 C：あまりできていない。 D：できていない。(かかわる力を重視した教育の推進)

	評価項目	職員 1	職員 2	職員 3	職員 4	職員 5	職員 6	職員 7	職員 8
園児にとつて魅き力ある幼稚園	意欲の育ち	A	B	B	B	A	B	C	A
		B	B	A	C	A	D	C	B
		B	B	B	B	B	D	C	B
		B	B	A	B	B	C	B	B
		B	B	B	B	B	B	B	A
		B	B	A	B	C	C	C	A
		A	C	A	C	B	C	C	A
		B	A	B	B	A	C	C	A
		B	C	C	B	B	C	B	A
		B	B	B	B	B	B	B	A
保護者に魅き力ある幼稚園		B	B	A	B	C	C	C	A
		B	B	B	B	B	B	C	A
		B	C	B	B	B	C	C	B
		B	B	B	B	A	C	B	A
		A	B	B	B	A	C	C	A
		A	C	C	B	A	B	B	A
		A	B	A	C	A	B	B	A
		B	B	B	B	A	C	C	B
		A	B	B	C	B	B	B	A
幼稚園		A	B	B	B	B	B	B	A
		A	B	C	C	A	B	C	A
		B	B	B	B	B	C	C	B
		B	B	B	B	A	C	B	A
		A	B	B	B	A	C	C	A
		A	C	C	B	A	B	B	A
		A	B	A	C	A	B	B	A
		B	B	B	B	A	C	C	B
		A	B	B	C	B	B	B	A
幼稚園		A	B	C	B	B	C	C	A
		B	B	B	B	B	C	C	B
		B	B	B	B	A	C	B	A
		A	B	B	B	A	C	C	A
		A	C	C	B	A	B	B	A
		A	B	A	C	A	B	B	A
		B	B	B	B	A	C	C	B
		A	B	B	C	B	B	B	A
		A	B	B	B	B	B	B	A
幼稚園		B	C	B	B	B	C	C	B
		B	B	B	B	B	C	C	B
		B	B	B	B	A	C	B	A
		A	B	B	B	A	C	C	A
		A	C	C	B	A	B	B	A
		A	B	A	C	A	B	B	A
		B	B	B	B	A	C	C	B
		A	B	B	C	B	B	B	A
		A	B	B	B	B	B	B	A
幼稚園		B	C	B	B	B	C	C	B
		B	B	B	B	B	C	C	B
		B	B	A	B	A	B	C	B
		B	B	B	B	A	B	C	B
		A	B	B	B	B	C	C	B
		B	B	B	B	A	B	C	B
		B	B	B	B	A	B	C	B
		B	B	B	B	A	B	C	B
		B	B	B	B	A	C	C	A

資料6

自由ヶ丘幼稚園 保護者アンケート集計表

平成25年11月22日

《配布数250部 回答数：198部 回収率：79%》

A：そう思う		B：ややそう思う		C：あまりそう思わない		D：そう思わない	
		(%)					
お子様のこと		A	B	C	D		
1	楽しく幼稚園に通っている.	8 0	1 7	3	0		
2	友達と仲良く遊んでいる.	7 1	2 8	0, 5	0, 5		
3	着替え・食事・排せつ等基本的な生活習慣が身についている.	6 7	3 1	1, 5	0, 5		
4	あいさつができる.	4 5	4 1	1 3	0, 5		
5	人を思いやる心が育っている.	4 2	5 4	4	0		
6	絵本をよく読むようになってきた.	3 7	4 0	2 1	2		
7	食事はきちんと食べている.	5 8	3 1	1 0	1		
職員のこと							
8	職員は園児に愛情を持ち一人一人に応じた保育を行っている.	6 6	2 9	4	0, 5		
9	クラスだより, 連絡帳などでお子様の様子や保育内容が伝わっている.	6 0	3 4	5	1		
1 0	お子様の教育や健康など子育ての悩みについて, 気軽にそして誠実に相談にのっている.	6 7	2 7	5, 5	0, 5		
1 1	担任だけでなく, 園全体で園児にかかわっている.	5 1	3 6	1 2	1		
1 2	自由ヶ丘幼稚園に入園させてよかったと感じている.	7 0	2 5	4	0, 5		
1 3 クラスの良さを教えてください.							
1 4 幼稚園に対する要望などありましたらお書きください.							

資料 7

自由ヶ丘幼稚園 保護者評価と自己評価のずれ

A：そう思う		B：ややそう思う		C：あまりそう思わない		D：そう思わない			
		クラスA組（％） 回収率73％			担任	クラスB組（％） 回収率100％			担任
お子様のこと		A	B	C	職員 7	A	B	C	職員 8
1	楽しく幼稚園に通っている。	77	23	0	C	72	28	0	A
2	友達と仲良く遊んでいる。	57	43	0	C	70	30	0	A
4	あいさつができる。	41	36	23	C	46	42	12	A
5	人を思いやる心が育っている。	36	60	4	B	30	58	12	A
6	絵本をよく読むようになってきた。	44	28	28	C	30	58	12	A
7	食事はきちんと食べている。	36	60	4	B	58	42	0	A
職員のこと									
9	クラスだより、連絡帳などでお子様の様子や保育内容が伝わっている。	50	42	8	C	62	30	8	A
10	お子様の教育や健康など子育ての悩みについて、気軽にそして誠実に相談にのっている。	62	33	5	B	67	33	0	A